

“NIDS NEWS”



防衛研究所企画室編集(03-3713-5912)

・・・・・・2011年1月の主な出来事・・・・・・

《柘田所長「年頭の辞」》



1月4日、防研内講堂で職員全員が集合し、年始行事が開催されました。

柘田所長は「年頭の辞」の中で、「戦略環境の変化に伴い防衛研究所の役割は重要性を増しており、培った能力・知見・機能を積極的に活用することが求められている。防衛研究所の能力向上は、組織を構成

する個々人の力量にかかっており、努めて対外的な交流を図り、実力を涵養してほしい。防衛研究所の在り方検討で提起された提言内容を実行に移し、残された課題に取り組みたい」と一年の抱負を語りました。

《第2回アジア太平洋安全保障ワークショップ》

1月27日から28日にかけて、防研講堂において平成22年度アジア太平洋安全保障ワークショップが開催されました。本ワークショップは、アジア太平洋諸国が直面する安全保障上の課題について、域内から専門家を招聘し、防衛省自衛隊等政府関係者・有識者を交えて時宜を得た意見交換を行い、参加者間で知見を共有しようとするものです。

本ワークショップは、我が国の防衛政策立案、とりわけ防衛交流ないし安全保障戦略の

議論に示唆を得ることを目標としており、今回が2回目の開催となります。今回も前回に引き続き「アジア太平洋諸国の安全保障課題と国防部門への影響」をテーマとし、以下の10人の研究者(発表順)から担当国についての報告及び討議が行われました。



- インドネシア：リザール・スクマ氏（戦略国際問題研究センター所長）
- マレーシア：タン・シュー・ムン氏（戦略国際問題研究所外交・安全保障部長）
- フィリピン：ハーマン・クラフト氏（戦略開発問題研究所所長）
- シンガポール：ラム・ペン・ア氏（シンガポール国立大学東アジア研究所上級研究員）
- タイ：パヴィン・チャチャヴァルポンブン氏（シンガポール東南アジア研究所首席研究員）
- ベトナム：ホアン・アイン・トゥアン氏（前在米大使館公使）
- ミャンマー：ティン・モン・モン・タン氏（シンガポール東南アジア研究所上級研究員）
- 米国：アンドリュー・エリクソン氏（ハーバード大学フェアバンクセンター研究員）
- 中国：由冀氏（豪ニューサウスウェールズ大学教授）
- 日本：庄司智孝（防研研究部第3研究室主任研究官）

各報告者は、各国の安全保障上の重要課題を分析した上で、それらの国防政策等への関連性、将来の展望や地域的協力の可能性について報告し、質疑を行いました。

総合討議では、各国が直面する課題を「国内情勢」「外的・伝統的脅威」「非伝統的脅威」と区分した上で、それらに影響を与える「中国の今後」「米国の東アジア戦略」「多

国間安全保障協力枠組」について検討しました。その際「南シナ海における中国の強硬姿勢は問題であるが、東南アジアは従来どおりヘッジ戦略で対応する」「主として米中関係を中心とするパワーバランスの変化が東アジアの戦略環境を変化させる重要な要素となっている」「エネルギー、食料、気候変動といった非伝統的安全保障問題はますます重要になっており、多国間の協力が必要とされている」等の示唆に富む指摘がありました。

本ワークショップの成果は、防研ホームページに掲載される予定です。

《 第58期一般課程 》

先月から引き続き、第2学期として「紛争と国際社会」、「地域安全保障1」、「地域安全保障2」、「東アジアの安全保障2」、「経済と安全保障」及び「日本の防衛」の各講座及び10個セミナーを実施しました。

20日、21日には、研究論文中間発表会を開催し、類似テーマの研修員グループごとに発表討議を実施しました。



東部方面総監（関口陸将）による講話

また、現地研修として14日には朝霞駐屯地、28日には在日米軍横田基地をそれぞれ研修しました。朝霞研修では、東部方面総監部において総監（関口陸将）講話を受けたほか中央即応集団司令部及び広報センターを研修して陸上自衛隊におけるメジャーコマンドの状況等について認識を深めることができました。横田研修では、在日米軍司令部、第5空軍司令部及び軍事法廷を研修し、アジア・太平洋州地域の安全保障における在日

米軍の役割、任務等について理解を深めることができました。

《 HP掲載出版物のお知らせ 》

NIDS コメンタリー第18号 明らかになった北朝鮮のウラン濃縮活動の意味

NIDS コメンタリー第16・17号 アジアの空軍軍拡競争を誘発する中国-「機は熟すか」

・・・「史料紹介コーナー」・・・

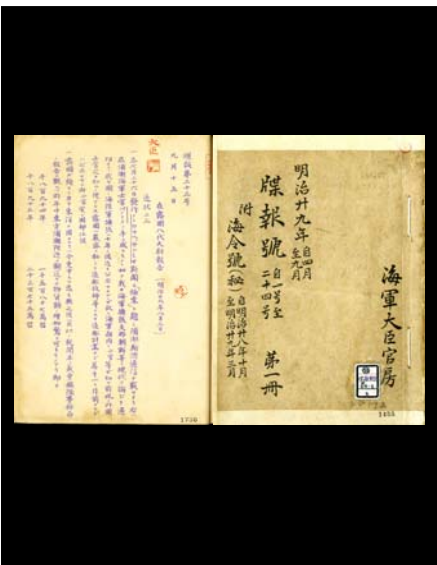
平成 22 年度は、日露戦争に参加した軍人の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

《 やしろ るくろう 八代 六郎 1860～1930年 》
- 広瀬武夫、秋山眞之と交流し数々の要職を歴任した海軍の逸材 -



兵術要論 (登録番号：海軍省 - 教範 - 338)

八代六郎大将(海兵8期)は、常備艦隊参謀、第1・第2艦隊司令官、海軍大学校長、舞鶴・佐世保鎮守府長官、海軍大臣等を歴任しました。この史料は、同大将(当時大佐)が明治34年10月から明治36年7月の間、海軍大学校に選科学生として入校した際、戦略戦術を学ぶにあたってスイスの兵学家ジョミニの著書を自ら翻訳した「兵術要論」です。本書の緒言には「海軍大学校教官秋山少佐二恩借シ之ヲ覽ルコトヲ得、精読飽カズ終ニ之ヲ譯スルニ至レリ」と秋山眞之少佐(後の連合艦隊参謀)から借用して翻訳に至った経緯が述べられています。本書は同校の講究録附録として印刷され講究の資とされました。



在露國八代大尉報告

(登録番号：海軍省 - 牒雑報号 - M29 - 1 - 5)

八代大将は明治28年12月から明治32年7月までの間、ロシア公使館付武官として勤務しました。この史料は明治29年8月、同大将(当時大尉)がロシアの現状について報告した「在露國八代大尉報告」です。同報告にはロシアの一海軍士官が書いた日本海軍の拡張等に関する新聞記事を例に「我力國ノ海陸軍擴張八十年ノ後迄モ公示セラル、ガ故ニ海軍部内ノ小官等ガ知ル前既ニ外國士官之ヲ知ルノ便アレトモ露國八嚴密ニ秘シテ造船技師等ニスラ造船計画ナド着手一ヶ月前ナラデハ公示セザル由小官実ニ困却仕候」と述べられており、当時のロシア国内における軍機保護の状況がよくわかります。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。
 詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
 防衛研究所企画室
 専用線：8-67-6522、6588 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp